

令和8年度 第8期第4回 新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和8年4月28日（火）午後6時～8時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館）1階多目的ホール

【出席者】 委 員：植田、遠山、長山、則竹、笠井、捧、富田、平山、高野、癸生川、塩月
事務局：村上文化観光産業部長、内野産業振興課長、黒川産業振興係長、前田産業振興主査、
長峰産業振興主査、柳下産業振興主任、村越産業振興主任

【欠席者】 志村、中村

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）創業支援について

（2）産業振興プランと産業実態調査について

3 主な説明と発言内容

（創業支援）

◆創業支援施策に関する検討

- ・前回の意見を踏まえ、創業支援の考え方を「シーズ起点」から「地域ニーズ・課題起点」へ見直した。
- ・創業後の定着及び成長を見据え、企業・大学等との連携や実証機会の創出など、出口戦略の強化を図った。
- ・ビジネスプランコンテスト参加者アンケートでは、①起業・事業継続者が一定数存在すること、②主な課題として「販路開拓」及び「人材確保」が挙げられていること、③支援ニーズとして「資金調達」及び「実証機会」が多いこと等が確認された。なお、回答数が限定的であるため、結果の解釈には留意が必要とされた。

◆中間報告（創業支援の再構築）

- ・高田馬場創業支援センターについては、環境変化や支援機能の重複等を踏まえ、令和10年度末をもって廃止することが適当であると整理された。
- ・廃止にあたっては、利用者に不利益が生じないよう十分な配慮期間を確保する必要があるとされた。
- ・今後は当該機能をB I Z新宿へ集約し、創業支援施策の再構築を図ることとされた。
- ・課題として、①民間施設の増加による役割の相対的低下、②支援機能の重複、③ニーズの多様化（デジタル化・スタートアップ対応）等が整理された。
- ・スモールビジネス及びスタートアップ双方に対し、①一貫した支援体制の構築、②成長段階に応じた支援の充実、③関係機関との連携及び実証機会の強化が必要とされた。
- ・今後、迅速に創業支援施策を推進していくためには、第8期の周期を待たずに早期に区に提言を行う必要があり、「中間報告」取りまとめの必要が確認された。

◆中間報告に関する主な意見

- ・高田馬場創業支援センター退所者を対象としたアンケート結果において満足度が高い一方、廃止方針との整合性について丁寧な説明が必要であるとの意見があった。
- ・「課題」と「環境変化」の整理について、表現の見直しが必要であるとの指摘があった。
- ・満足度の高さは成果として評価し、機能の発展的統合として位置付けるべきとの意見があった。

(産業実態調査と産業振興プラン)

◆産業実態調査について

- ・外国語対応が必要
- ・団体や事業者への個別ヒアリングが必要
- ・調査結果がどう反映されているか明示した方がよい
- ・設問の数や内容を工夫し、回答しやすくする必要がある

◆現行の産業振興プランに関する論点

- ・現行プランは、全体のバランス及び理念面において評価された。
- ・一方で、以下の課題が指摘された。
 - ・施策の成果・効果の検証が十分でないこと
 - ・データに基づく政策立案の強化が必要であること
 - ・個別施策間の関係性が不明確であること

◆今後の方向性に関する主な意見

- ・エビデンスに基づく政策形成の強化
- ・地域特性（新宿の多様性）を踏まえた施策設計
- ・地域ごとの産業特性を活かした展開（例：神楽坂・大久保等）
- ・産学連携及び企業間連携の強化
- ・意外性や組み合わせによる新たな価値創出
- ・大企業本社の立地等、新宿の特性の活用
- ・共通コンセプト（中間レイヤー）の不足

4 次回日程について（予定）

産業振興会議

日 時：令和8年8月

会 場：B I Z新宿

5 閉 会